

令和6年度第1回防府市廃棄物減量等推進審議会 議事概要	
開催日時	令和6年7月31日（水） 午前10時00分～12時00分
場 所	防府市クリーンセンター 可燃ごみ処理施設2階会議室
出席者	<委 員> 土井委員（会長）、内田委員、藤井委員、阿部(幹)委員、松永委員、石田委員、中司委員、田中委員、梅田委員、磯野委員、山本委員、阿部(新)委員（副会長）、今村委員、大嶋委員、荒瀬委員 <行 政> （事務局） 金澤生活環境部長、廣中クリーンセンター所長、吉川所次長 松永所次長補佐、山崎庶務係長、岸本調整係長、西田主査、永田主任、三輪主任
欠席者	國澤委員、橋口委員、原田委員
傍聴者	1名

1 開会 <省略>

2 生活環境部長あいさつ <省略>

3 会長・副会長選出
会長として土井委員を、副会長として阿部(新)委員を選出

4 会長あいさつ <省略>

5 議事

（1）防府市における廃棄物処理の現状と取組について

（事務局） <資料 1～9ページについて説明>

（委員）

事業系ごみ排出量の推移について、事業系一般廃棄物の年間の搬入量等の搬入制限は設けているか。山口市では年間の搬入量にある程度上限が設けてあり、それを超えると持ち込みができなかった。

リサイクル率の推移の中で、何年か前から古紙類が減っているということだが、防府市での紙の配布物が増えているか減っているかクリーンセンターの認識を教えてください。

（事務局）

事業系一般廃棄物の制限について、可燃ごみ（草木や汚れた紙等）については、

50cm以内に切れば、搬入量の制限はなく搬入することができる。不燃ごみ、陶磁器ガラス、粗大ごみ等に関しては搬入量の制限がある。不燃ごみや陶磁器ガラスについては1日1袋まで、可燃性粗大ごみや家電といったものは1日5点までと細かく点数制限を設けている。

古紙類に関しては、感覚的ではあるが、デジタル化等の影響で減ってきていると認識している。

(委員)

紙の配布量については、私は自治会長を実際にやっていて、自治会長の感覚では増えていることはあっても減っていることはないと思う。

(会長)

私も自治会長をやっていて、集団回収を行っているが、新聞等の古紙類は、最初の頃に比べると半分以下になっている。新聞をとっている人が減っていること、丸久さんも取り組まれている民間の古紙回収等を利用される方が増えていることが影響していると思う。

(委員)

新聞等については、明らかに減っているというのは私も同じ意見である。

私が質問したのは、防府市が自治会を通じて配布する配布物が増えているかどうかということなので、勘違いがないように訂正させていただく。

(委員)

事業系ごみの中に、介護施設から出るおむつは入っているか。

(事務局)

事業系ごみの中に、おむつは入っている。

(委員)

家庭から出るおむつは家庭系ごみだが、介護施設から出るものは事業系ごみということになると思うが、超高齢社会に入るなかで、事業系ごみ排出量を令和13年度に9,883tにするという目標は難しいのではないかと感じる。

母を介護したとき、1人の高齢者からこんなにおむつが出るのかと感じた。

近年、おむつを再生したり、燃料に使ったり、自治体がいろいろ試行錯誤しているようだが、このような取り組みは、コストが非常に高いと聞いた。

全国で、実際に取り組んでいるのは40～50自治体と聞いているが、国は増やしたいと思っているようだ。防府市は、おむつの再生についてどのように考えているか。

(事務局)

委員が言われたようにおむつの再生等は、エネルギー的にはマイナスになる。本

市では、おむつは焼却処分を行っているが、発電施設があるので、新たな経費をかけずに、燃やすことで熱回収を行うことができているため、現状はコスト的にもいいと考えている。

おむつの問題については、課題の1つと考えてはいるが、新たなコストをかけてしまうと、住民負担につなげてしまうことにもなるので、焼却量等の状況をみながら今後必要に応じて検討していくものと考えている。

(委員)

防府市ではダンボールコンポスト教室を開催しているが、何人くらい参加者がいるか。また、一度参加した人が再度参加することや、材料の再配布というものはしているか。

(事務局)

ダンボールコンポスト教室は、年8回開催している。昨年度は70名の方が参加している。複数回参加する方もいる。材料の再配布のみは対応していない。

(委員)

一度参加した人は、作り方は分かるので、宇部市のように、申請した人に材料のみを無料で配布する仕組みを検討してはどうか。

(事務局)

参加者に継続して、肥料化してもらおうという点では材料の再配布という考えもあると思う。ただ、本市のダンボールコンポスト教室は、生ごみを肥料化できること、生ごみ自体を減らすことができることを知ってもらうことを目的としている。

あくまでスタートアップの機会提供なので、いい取り組みだと感じていただいた方には、ダンボールコンポストのような一過性のものではなく、生ごみ処理機等の購入を検討していただき、購入される場合は補助金を出している。

(委員)

私も生ごみ処理機は持っているが、魚の骨とかは対応できない。

生ごみ処理機は結局使わないから、ダンボールコンポストの材料を、継続して提供していただく方が、有効だと思う。

(事務局)

現在は、あくまでスタートアップの取組として位置づけているので、継続的な無料配布ではなく、生ごみ処理機等の購入に移行していただくことを考えている。

(会長)

ダンボールコンポストについては、私も昨年講習を受けて利用している。それによって、週2回出していた燃やせるごみが、週1回に減ったので、1カ月でゴミ袋代13円×4回分が助かっている。無料での配布という考え方もあると思うが、ご

み袋代が軽減できるので、材料を自分で買うという形でもいいと思う。ただ、ダンボールコンポストの蓋になる部分がお店にないので、個人で買うのは難しい。原価でいいので、蓋までついたセットをクリーンセンターで販売してもらうことはできないかと感じる。

生ごみ処理機と違い電気代もかからないので、ダンボールコンポストには自然に対する意識を高める意味でも効果があると思う。

(委員)

リサイクル率の分母は何の数字か。

(事務局)

分母はクリーンセンターに搬入された総ごみ量で、分子は資源ごみ量である。

(委員)

防府市には、資源回収業者に資源ごみを持って行く人もいると思うが、その数量も入っているか。

(事務局)

個人が資源回収業者に持って行ったものは入っていない。

あくまでクリーンセンターに搬入されたもので算出している。

(委員)

個人の資源回収業者への持ち込みは結構多いと思うが、それを入れたらリサイクル率が上がるということでもいいか。

(事務局)

リサイクル率は上がると思う。

(事務局) <資料10～15ページについて説明>

(委員)

ごみ袋はなぜ各自治体によって違うのか。自治体のごみ袋は、自治体の業者に作ってもらう必要があるといった、ごみ袋を統一できない理由があるのか。

(会長)

理由の1つは、自治体のごみ袋が同じだと自分が住んでいる自治体以外に捨てる人が出てくることだと思う。例えば山口市に住んでいる人が防府市に通勤する際、防府市でゴミを捨てるといったことが起こる可能性がある。

(事務局)

基本的に市町村で発生した一般廃棄物はその市町村で処理するというのが原

則なので、ごみ処理手数料であるごみ袋はその市町村ごとということになる。

(委員)

古着は、クリーンセンターへの搬入だと思うが、大道ではクリーンセンターが遠いため、燃やせるごみに衣類が入っていることが多い。

宇部市では公共施設に古着を入れる場所があって排出しやすい環境となっている。大道のように中心部から遠い地域だけでも公民館等での回収ができないか。

(事務局)

現状はクリーンセンターに直接搬入するか自主搬入地区であれば、自主搬入の日
に回収が可能という状態。今後、必要に応じて検討したい。

(会長)

委員の自治会は、自主搬入をしていないのだと思うが、自治会長に自主搬入への変更について提言するのも1つの手だと思う。私の自治会は自主搬入で古着を回収している。自主搬入は補助金も出るので、自治会長に相談してみてもいいと思う。

(委員)

防府市の取組にあるフードドライブ等の開催について、丸久も、フードバンクポストを、アルクの防府店、牟礼店、三田尻店に置いている。店舗で販売しているパン等で、その日に賞味期限が切れるものは販売せず、フードバンクポストに入った商品と一緒にルルサスに届けている。

夏休みなどは、給食がなくなる関係もあり、どうしても届けた商品がすぐになくなる。もし家庭でフードバンクポストにいれることができる商品があれば、賞味期限まで1ヶ月以上あればいいので、積極的に活用して欲しい。食品ロスの削減や貧困問題の解決に貢献できるので、市広報等でPRしていただけると助かる。

(事務局)

検討させていただく。

(委員)

家庭系ごみ排出量は令和3、4、5年度の3年間で、1人1日当たり139gオーバーしている。事業系ごみの排出量は3年間で1,299tオーバーしている。このままでは10年経った時、合計で1年分オーバーする可能性がある。

先ほど事業系一般廃棄物について質問したが、ある程度事業系一般廃棄物について制限を加えることが必要だと思う。制限の加え方については、搬入量の多い事業所にこれ以上の持ち込みを禁止するといった制限だけではなく、これ以上は料金が上がるという形の制限の加え方もあると思う。

防府市自治会連合会は、昨年度から市や他の団体が出す広報物について、必ず「資源ごみ(雑がみ)として排出をしてください」という文言入れるようお願いしている。依頼を継続した結果、広報物に記載してもらえるようになったが、小さくて

見つけにくい箇所に書いてある。自治会連合会としては、表紙の一番下に大きい字で書いて欲しいとお願いしているが、まだ実現できていない。昨年の4月に防府市はカーボンニュートラルシティ宣言をしている。「節電ごみ減エコ移動」の「ごみ減」に対して、啓発活動が不足していると思うのでクリーンセンターだけでなく、広報政策課等と連携して市全体で検討して欲しい。

他市の取組みについて2つほど紹介する。

四国の徳島県上勝町という、リサイクル率が80%を超えている町について紹介する。取組み内容は、1つ1つのものに対してそれを処分すると、費用的にプラスになるのかマイナスになるのかを示している。例えば、ペットボトルを出せば、いくらお金が入ってくる、ペットボトルの蓋を捨てると、いくらお金出さないと処分できないといったイメージである。

防府市に最初に取り組んでもらいたいのは、可燃ごみの焼却費がどのくらいかかっているかということを示すことである。可燃ごみを玉ねぎ1個分減らして欲しいという周知方法ではなかなか効果がないと思うので、処分するのに100g当たりいくらかかるかということを示すことが意識の変化には必要だと思う。

次に京都市の取組を紹介する。京都市では、市民や団体から、ごみの減量に関する提案をしてもらい、その取組みに対して補助金を出すという事業をおこなっていた（効果が出たので今はやっていないみたいである）。

防府市にも、協働事業提案制度という、年約30万円、3年間お金が出る制度があり、その中に行政提案というものがある。行政側がこういう取組みを皆で考えて提案して欲しいと依頼し、出された提案に対して市が予算化してお金を出すという制度であるが、行政提案にごみの話が全然出てこない。これから来年度に向けて、この制度の活用の検討をしていただき、ごみ減量化を目指していくべきだと思う。

（会長）

非常に建設的な提案をいただいた。私も広報誌は必ず見るが、「資源ごみ（雑がみ）として排出をしてください」という文言は見つけることができなかった。やはり、表紙など一目でわかるところでPRをしていただきたい。

上勝町や京都市の実践例については、今ここで答えは出ないと思うので、検討を進めていただきたい。

（委員）

一人いくらのごみ処理料金がかかっているかということは、私も認識がないので示すことが必要だと思う。令和5年度の焼却灰セメント原料化の実績が約3,000tと説明があったが、そのリサイクルによっていくらお金が市に入ってくるのか。缶やペットボトル、新聞といった資源ごみをリサイクルしたらそれぞれどれくらいお金が入ってくるのかを示すことで、市民の意識は今より高まると思う。

（会長）

おそらく、焼却灰は市にお金が入ってくるのではなく、払っていると思う。

ただ、最終処分場の利用可能な期間が大幅に延びるので、その効果が大きい。
(事務局)

焼却灰については、会長からご説明のあった通りである。資源物でリサイクルに回すものには、資源として本市にお金が入ってくるものもあるが、逆に処理費を払っているものもある。

(会長)

市民の方に可視化できる数値や情報があれば、広報等の多くの人が見るものを使って大きくPRを続けていただきたいと思います。

(委員)

アルク牟礼店と中関店に置いている古紙回収機は1kgごとに1ポイントたまって、500ポイント貯まると500円の丸久商品券と交換できる仕組みにしている。新しくなったアルク防府店にも、今後設置を考えていきたいと思う。

店頭ではトレーの回収も行っている。去年は全店で456tほど回収している。回収した後は広島 of 業者で再生利用されるので、CO₂の削減につながる。食品トレーを積極的にスーパーの店頭に持ってきていただければクリーンセンターへの持ち込み量も減ると思うので、市民にPRしていただければと思う。

(会長)

多くの建設的な提案が出ているので、事務局は、意見を取り上げていただきたい。最後に私からも提案をさせていただきたい。1点目は竹の有効活用についてである。竹は上手く使えば、肥料にもなるし有効活用できると思う。小野地区に竹を有効活用している事業者がいるが、市内の竹を全部そこに持っていくというのは難しいと思うので、クリーンセンターでも有効活用するような方策について勉強を始めていただきたい。

もう1点、これはお金も時間もかかることなのでまずは勉強から始めていただきたいことだが、草や木の堆肥化についてである。防府市の可燃ごみ全体の中で、30%程度が草や木だと感じている。先進地として大分県の臼杵市がある。臼杵市では草や木に豚の糞を混ぜて堆肥化し、販売している。その堆肥を使用してできた作物は、ブランド化してPRするという取組を行っている。このような取り組みを行えば、燃えるごみの量は大幅に減ると思う。

(2) プラスチック資源一括回収事業について

(事務局) <資料16～20ページについて説明>

(委員)

プラスチックはどうしても劣化するが、劣化したものもすべて回収をするのか。この事業で、家庭ごみがどの程度減る見込みを持っているか聞かせていただきたい。

(事務局)

素材的に、プラスチックであれば、劣化したものでもリサイクルは可能なので、一括回収の対象品にできる。

どの程度家庭ごみが減るかという見込みについては、現段階で量の想定は難しいが、リサイクル率で考えると、この事業を行うことでリサイクル率が一気に改善するというものではないと考えている。

(会長)

灯油缶など、中に灯油が膜で薄く残っているものについても出すことは可能か。

(事務局)

問題ない。サイズが50センチ超えないものであれば大丈夫。

(委員)

子供のおもちゃは別に回収するのはどうか。

宇部市では、社会福祉協議会が使わなくなったおもちゃを集めて、必要な人が再利用するという取組を行っているので、防府市でも検討していただければと思う。

(事務局)

本市では、大型のおもちゃについてはリサイクル品として、抽選会などでリユースにつなげている。小型のおもちゃまでということは難しいので、今回の事業でリサイクルという形のラインを新たに作りたいと考えている。

(委員)

プラスチックごみが減らないのは、プラスチックごみの怖さの部分がしっかり伝わってないことが理由だと思う。人の体内に入ると危険だという報告は多く出ているので、子どもたちも含め市民に啓発していく必要があると思う。

プラスチックごみは非常に厄介だが、リサイクルできるものでもあるので啓発も含め事業を進めて欲しい。

(委員)

エコまつりのアンケートの項目が、非常に多いと思うが、どのように活用しているか。アンケートは、もう少し簡素化してもいいように思う。

(事務局)

次年度以降の、エコまつりの参考にしている。

アンケートの項目については、検討したいと思う。

6 閉会